

令和5年度 第2回 高岡市民病院経営懇話会の概要

1 日時 令和6年3月7日（木）午後4時～午後5時00分

2 場所 高岡市民病院会議室

3 出席者 高岡市民病院経営懇話会委員

成瀬委員（座長）、川渕委員、河村委員、佐野委員、炭谷委員
事務局

藪下院長、伊藤理事・副院長、福島副院長、稲見看護部長

柴田事務局長、上森総務課長、島田医事課長

4 協議事項

（1） 第V期中期経営計画改訂版について

（2） 令和6年度の主な取り組みについて

5 委員からの主な意見等

（1） 第V期中期経営計画改訂版について

[委員]

スマホアプリの導入など便利さが増していると感じる反面、スマホ等を使えない高齢者が取り残されるのではないかという懸念がある。今まで通りの受診、支払方法も継続するという認識で良いか。

[病院]

今までのやり方に加えてスマホアプリ等を加える、という意味であり、今までのやり方をなくすわけではない。

[委員]

高岡市のほうで、高齢者向けアプリを整備していると聞いたが、それとの連携等は考えているか。連携は難しくても、バナーを貼るくらいはできるのではないか。

[病院]

当院が導入しているアプリは市民病院が専用開発したものではなく、全国の病院で導入されているものであるため、そこに市のアプリを連携することは難しい。（バナーについては）今後検討する。

[委員]

アプリの存在を知らない方が、自分の順番を抜かされたと思ってクレームに発展する可能性があるため、院内掲示等で分かりやすくした方が良い。

[委員]

院内保育について、どのくらいの利用があるのか。また、病児保育への対応等は。

[病院]

定員の 10 名を上回る希望があり、現在は満員である。週一回は時間外保育も受け付けている。また、あくまでも病院職員向けの施設であるので、病児保育等への対応は考えていない。

[委員]

病児保育の受け入れがあれば、病院で働く職員も安心して預けられると思う。これからは女性医師や保育を頑張る男性医師も増えてくると思うので、ぜひ検討してほしい。

[委員]

能登半島地震の被害はあったのか。

[病院]

建物正面のタイルのひび割れや、建物本体のジョイントカバーずれ、エレベーターの一時停止など軽微な被害はあったが、大きな影響はなかった。

[委員]

石川からの被災者の受け入れなどはあったのか。

[病院]

病院から 4 名、七尾の施設の方から 7 名の合計 11 名の入院患者があった。

[委員]

病院からの DMAT 派遣等があったか。

[病院]

DMAT、JMAT については、派遣要請があれば順次派遣している。

[委員]

補助金の減というのは、一般会計繰入金の金額は変わらないが、コロナ補助金が減になったという認識で良いか。

[病院]

その通りである。

[委員]

看護部長を副院長として兼任させる病院が増えているが、そのような人事は考えているか。看護部トップの処遇を見れば、その病院の看護師に対する評価の考え方が伝わるので、ぜひ検討してほしい。

[病院]

前の看護部長が副院長を兼ねていた。市の方とも調整し、今後検討する。

(2) 令和 6 年度の主な取り組みについて

[委員]

精神科病棟の個室増は医療、介護の両面から大変助かる。認知症の患者を緊急入院させたい事例が多くあるが、個室が空いていないために受け入れられない、と断られることが多い。富山市民病院は個室が多い反面、高岡市民病院は少なかったなので、この対応は大変助かる。

[委員]

バイタルリンクについて、高岡市民病院のベッドがどれだけ空いているか、という情報を流してくれると、開業医的には紹介しやすくなると思うので、そのような対応も検討してほしい。

[委員]

災害への備えとなる備蓄はどのくらいあるか。

また能登半島地震について、例えば厚生連には 20～30 人が（避難所ではないのに）避難に押し寄せた、という事例があった。高岡市民病院は大丈夫だったか。またそのようなときに対するマニュアル等はあるか。

[病院]

備蓄に関しては、ある程度の物資は常に備蓄してある。

避難者対応については、震災のあった日は急患センターの代わりに市民病院が 1 次救急をしていたため、軽症患者等が押し寄せた。

患者ではない一般の避難者には志貴野中学校の避難所を案内した。

[委員]

アイセンターが設置されるとのことだが、白内障の手術はどこも数か月待ちなので、期待している。

[病院]

医師の増員、診察室の増設のほか、眼科の手術ができる日を増やすなどの対応も考えている。

[委員]

らくらく会計システムについてだが、周知が足りていないと感じる。

高岡市の LINE に載せるなどすればよいのではないか。

[病院]

このアプリの利用が広がれば、アプリを使っていない方の待ち時間の削減にも効果が出ると思っているので、今後も周知に力を入れていきたい。

[委員]

若いお母さんはほとんどが母子モ（ネネット高岡）のアプリを使っているので、そこへのバナーリンク等も効果があるかと思う。

[病院]

らくらく会計システムは 3 月 4 日から開始したが、来院された方に対しては医事課職員が個別に説明するなど、周知に務めている。

[委員]

このアプリは市民病院の専用のものでなく、全国的に普及しているのか。

[病院]

このアプリ自体は全国的に使われているものである。県内では黒部市民病院が導入しているが、使える機能については病院間で差がある。黒部市民病院は、後払い会計や診察通知等は導入していないので、県内では当院が先行している状況にある。